

学校自慢

ソニー子ども科学教育プログラム 『最優秀校』に輝く

旭市教育委員会教育総務課学校教育指導室長（前旭市立干潟中学校長）

さいとう みのる
齊藤 実



1 はじめに

本校は、平成17年に旭市・干潟町・海上町・飯岡町の合併により、旭市立干潟中学校として新たに発足した学校である。校舎からは下総台地や干潟八萬石と呼ばれる広大な水田地帯が一望できる。

コロナ禍の中ではあるが、協力的な地域・保護者、そして、素直な子供たちと協働する職員に囲まれ、目指す生徒像「広い心、賢い頭、逞しい体と心」の育成を目指して教育活動を進めている。

2 ふるさと教育といなほプロジェクト

旭市では教育に関する大綱に「ふるさと教育」を掲げている。それを受け、本校理科部会では「いなほプロジェクト」と称し、地域の自然素材を用いた理科教育の発展と充実を目指し、平成30年度から研究を進めている。毎年、研究内容を論文にまとめ、ソニー子ども科学教育プログラムに応募しており、令和2年度には『最優秀校』を受賞することができた。「科学が好きな子どもを育てる」をテーマとし、地域の自然環境を生かした観察力を高める優れた実践が評価された。「生物の成長と殖え方」では、地元のレンコン農家の協力を得て、収穫体験から観察実験へと展開した。また、地層の学習では、複数の露頭を観察・比較し、疑問に思ったことを模型を使って解決させる実験へと発展させ、考えを深めさせた。



レンコンの収穫

研究代表の神原真人教諭の熱心な研究と同部会の榊宏海教諭をはじめとする全職員の協力、真剣に学習に取り組む生徒たちが研究の充実に大きく関わっている。



飯岡刑部岬の露頭観察

3 協働する職員之力

コロナ禍により、授業公開等がなかったため、令和2年度は自校研修の充実に努めた。相互授業参観を年3回設定し、「学習視野の広がり」を目指した授業実践を行った。参観後は、全職員でグループごとに他教科からの視点も交えた協議を行い、指導力の向上を図った。理科の研究と共通する「学習視野の広がり」を全教科に渡り研修したことで、理科部会の研究から学校全体の研究へと発展させることができた。

4 おわりに

令和3年11月、本校で「子ども科学教育研究全国大会」が開催される。「探究心」と「挑戦心」をもって学ぶ子供たちの姿を楽しみに、協働する職員之力を原動力とした学校経営を目指したい。